

# 文章力より“人間力”

安田 美弥（23期卒業生）

## 構成作家とは、どんな職業か？



構成作家とは、主にテレビ番組やラジオ番組の構成（＝進行プラン）を練り上げ、台本を作成する人のこと。一般的には放送作家と呼ばれることが多いのですが、時には出版物やイベントの構成に携わることもあり、必ずしも放送に関わる仕事だけではないので、私は、構成作家という言葉を用いています。

放送作家も構成作家も全く同じで、一言で言ってしまうと“台本を書く人”。ではありますが、台本を書く際は好き勝手に書けるわけではなく、プロデューサーやディレクター、AD（アシスタントディレクター）など、その番組に携わるスタッフと共に「こんな流れはどうか？」「このVTRは番組のどの辺りで出すか？」といった感じで入念に打ち合わせした後、それらをうまい具合に書き繋いでいかなければなりません。ですから、まあ、作家とは名ばかりで会議のまとめ役という書記的なポジションです。また、私たちはこの他にも、番組内で流れるナレーションの原稿を書いたり、番宣原稿を書いたり、新番組立ち上げの際には企画書を作成したりもしています。

## 構成作家になるには？



構成作家になるのに必要な資格は何もありませんが、どのようにして作家になるのか？とすると、いくつかのルートがあり、以下に挙げるのは、その主要なパターンです。

- ①プロの構成作家に弟子入り。またはプロが所属する作家事務所に入る。
- ②構成作家セミナーなど、専門学校で学ぶ。
- ③ラジオ番組にハガキやメールで面白ネタを投稿し、常連になる。
- ④テレビやラジオのADを経て作家に転身する。
- ⑤芸人から作家に転身する。

以上5つのルートが主流ですが、一番早くて確実なのは①特定の作家に弟子入りしたり作家事務所に所属すれば、先輩の仕事を観察しながら色々と学べる上、そこから仕事を振ってもらえるケースも多いため、比較的早く現場に出ることができそうです。

また、一昔前は③のケースが非常に多かったのですが、最近の傾向として多いのは⑤

かく言う私も、芸人から作家に転身した人間ですが、私の場合、作家になろう！と決意して上京したところ、東京在住の友人が偶然にも、大物作家・秋元康氏のお弟子さんと知り合いということで、当時、秋元氏が所属していた事務所ですんなり入れてもらえました。ちなみにですが、そのお弟子さんという方が、大ベストセラー小説「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」の作者・岩崎夏海さんです。このように素晴らしいご縁に恵まれた私は、事務所で2年ほど勉強させて頂いた後に独立し、現在はフリーで働いております。

## 構成作家に必要な“力”



### ◆ 発言力(自分の思いを声に出して伝える能力)

「作家になるには、かなりの文章力やセンスが必要ですよ」とよく聞かれますが、私はいつも「そんなことないですよ」と答えています。これは別に謙遜でも何でもなく、業界を見渡しても、ズバ抜けた文章力や奇天烈なセンスだけで生き抜いている人など、いないに等しいからです。とは言え、文章力もセンスも全くのゼロでは厳しいかもしれませんが、それよりも大切なのは“発言力”です。

私たちは、台本を書くために様々な人と話し合い、意見を交換しなければなりません。このプロセスがとても重要であり、ここで、だんまりを決め込むことは絶対にNGです。「私はこう思うんですが、どう思いますか？」と聞かれた際「その意見に賛成です」「いや、こうした方がいいんじゃないですか？」「思い切って、こんな展開は？」という具合に自分の思いを声に出して伝えなければ、話し合いは一向に進まず、台本が作成できないのです。

### ◆ 識別力(正しいことと間違っただけを見分ける能力)

これは、とりわけお笑いやバラエティの台本を書く際に必要とされる力ですが、芸人さんたちが笑いを取るのは、当然、常識から外れたことを言ったり、明らかにおかしいとされるアクションを起こしたりするからです。しかし、彼らが普段からおかしな行動を取ったり常識外れな振る舞いをしていのかと言うと、そうではありません。実際には、とても低姿勢で礼儀正しく、思慮分別のある方が多いです。というか、そういう人でないと、笑いは取れません。

なぜなら、それは“常識（＝正しいこと）”をちゃんと理解した上で、あえて、それを崩した“非常識（＝間違っただけ）”を表現するから面白いのであり、常識の規定がズレている人には、変な言い方ですが、正しい非常識が表現できません。歌舞伎俳優・中村勘三郎さんの言葉に「型をしっかり覚えた後に、型破りになれる」という名言がありますが、型破りなものを作りたいと思ったら、その前に基本をしっかり押さえること。世間一般の常識や物事の基礎をきちんと理解していないと、人を笑わせたり驚かせたりするような面白いものは生まれてこないのです。

### ◆ 柔軟力(相手を受け入れ、柔軟に対応する能力)

私が仕事をする上で最も大切にしていることは「相手の意見や考えを尊重する」こと。番組を作る時はもちろん、他の企画でもそうですが、それにはどのようなコンセプトがあって、どんな感じのものに仕上げたいのか？ということ詳しく伺い、その人なりにイメージしているプランがあれば、極力それに近づけるよう努めます。私たちの職業は“クリエイター”という分野に分類されますが、前にも述べたように、自分の感性だけを押し通せる仕事ではありません。根本的な土台やテーマがある上に自分なりのアイデアを足して良いものに仕上げていくのです。例えば、自分は日本家屋風の家が好みであっても、先方が洋風の館にしてほしいと言えば、おおむね洋館の造りにして「この部分に少しだけ和風のテイストを入れたら面白いんじゃないですか？」と提案する…といった具合でしょうか。どんな仕事でも同じだと思いますが、相手のニーズを最優先し、要所要所に自分の色やアイデアを出していくこと。その部分が控えめながらも光っていれば、必ず次の仕事に結びつくものと私は考えています。

## 生徒の皆様へ、一言

私は清教学園を卒業してから関西大学社会学部に進学し、それと同時に吉本総合芸能学院（NSC）に入所しました。その後、4年近く芸人として活動しましたが、芽が出る前にコンビを解散してしまい、長い間、フラフラした生活を送っておりました。しかし、さすがにこれではいけない！と改心し、構成作家の道を志してから、必死で働いてお金を貯め、27歳で上京。

その年齢で、全く馴染みの無い土地へ、しかも全く未開の世界へ飛び込むには勇気がいりましたが、いざ飛び込んでみると、色んな方々が力を貸して下さいました。前述の通り、偶然にも友人が大物作家さんと繋がっていたり、その他にも、私の存在を知った人が色んな人を紹介して下さいたりと数々のご縁に恵まれ、こうした縁が運を呼び、はたまた運が縁を呼ぶのでしょうか、とにかくにも大勢の方々に支えられて、今の私があります。

ですから、皆さんも、何かに興味を持たれたら、とにかくアクションを起こしてみして下さい。確か聖書の中にも「求めよ、さらば得られん」といった文言があったかと思いますが、まさしく、その通り。自ら何かを求め、行動を起こした人間には、神様もきっと手を差し伸べて下さいます。構成作家であれ何であれ目指すものが決まったら、まずは行動することです。

## 最後に、親御様へ…

清教学園は今や物凄い進学校になり、生徒さんの大半は有名大学や大手企業に進んでいかれることでしょうし、親御様もそのように切望しておられることと思います。ですが、もし、お子様が意にそぐわない進路を選択されても、頭ごなしに反対せず、本人の意志を尊重してあげて下さい。そんな簡単に許可できないというのであれば、2年3年と期限を設け「それだけの期間やってみてダメなら諦めなさい」といった条件を付けてもよいと思います。そうすれば、子供は必ず結果を出すか、現実には厳しかったということに気づきます。世の中には、頭を打って初めて気づくこと、また、自分で痛い目に遭わない限り気づかないことがたくさんあります。そういった経験をさせることで、今までスルーしていた親の有難みや、お金の大切さ、他人への感謝の気持ちなど様々なことを子供は学んでいきます。私自身、高校を卒業してから今日まで好き勝手させて頂きましたが、私の選択に不満はあっても、最終的にはいつも応援してくれた母に心から感謝しています。頑張って進学校に入ったというのに「芸人になる」「ミュージシャンになりたい」などと、ある日突然、子供から告白された親御様は落胆もするでしょうが、若い皆さんの可能性の芽をどうか摘まずに育ててあげて下さい。

